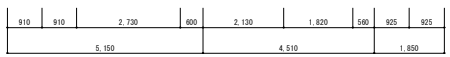
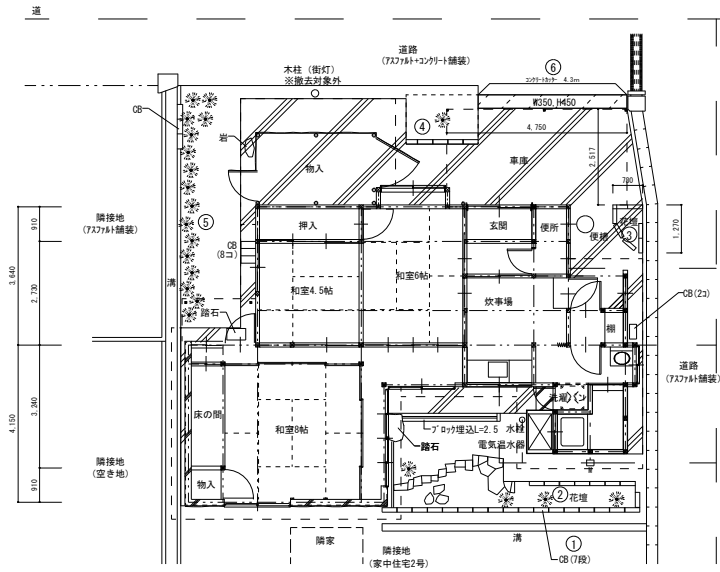
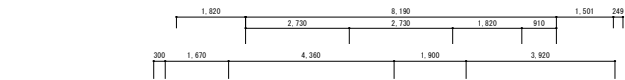


市営家中住宅 1 号解体工事設計図

MEMO			図面名		表 紙		工事名		市営家中住宅 1 号解体工事設計図		設計図	
			縮尺		製作日						No.	A - 0

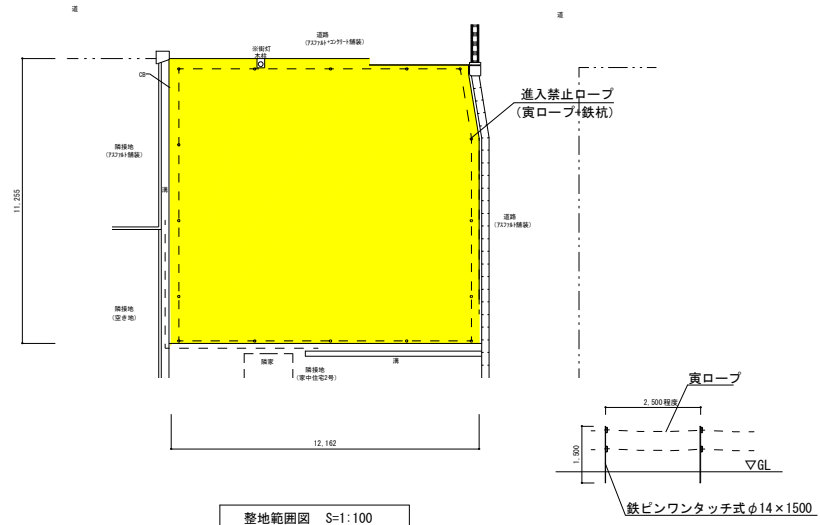
<p>1 工事名称 市富家中住宅1号解体工事</p> <p>2 工事場所 市富家中住宅1号（三次市三次町1645番地1）</p> <p>3 構造・規模 木造及びRC造 平家建て</p> <p>4 工事目標</p> <p>(1)建物解体・撤去工事一式（内容は別図による）</p> <p>(1)外構・工作物等一式</p> <p>5 別途工事</p> <p>6 不当要求又は工事妨害の排除について</p> <p>ア 暴力団等から不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という）を受けた場合はその旨を直ちに発注者に報告し、所轄の警察署に届出をすること。</p> <p>イ 発注者及び所轄の警察署と協力して、不当介入の排除対策を講じること。</p> <p>ウ 排除対策を講じたにも拘らず、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行うこと。</p> <p>エ 発注者と工程に関する協議を行った結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、約款第21条の規定により、発注者に工期延長の請求を行うこと。</p> <p>オ 暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害届を速やかに所轄の警察署に提出すること。</p> <p>カ 当該被害により、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行うこと。</p> <p>その結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、約款第21条の規定により、発注者に工期延長の請求を行うこと。</p> <p>7 公衆災害防止措置</p> <p>ア 工事に際し、工事関係者以外の第三者の生命、身体及び財産の危害、並びに迷惑を防止するために必要な措置をとること。</p> <p>イ 上記について、「建設工事公衆災害防止要綱（平成5年1月2日付 建設事務次官通達）」に基づき実施すること。</p> <p>8 現状復旧</p> <p>工事に際し、隣接建物等に損傷を与えた場合は、速やかに現状復旧を行うこと。</p> <p>9 その他</p> <p>(1)この工事の施工に際し、やむを得ず工事の一部（主体的部分を除く）を第三者に譲け負わせようとする場合は、原則として三次市内に亙た営業所・本店を有する業者に発注するものとする。</p> <p>(2)解体仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・品質性能・工法検査方法を明示している場合において、それらが、関係法令等（条約含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）を優先する。</p> <p>(3)本工事の場合には工事中下記に示す調査を行うため、管財課及び建築住宅課より連絡があれば対応すること。</p> <p>・公共事業労働費調査……工事中に実施（調査費等の記入提出、発注者の調査実施への協力等）</p>		<p>II 解体工事仕様書</p> <p>1 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁官庁補部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説」（最新版）（「解体仕様書」という。）による。</p> <p>2 特記仕様書</p> <p>(1)項目は番号に○印のついたものを適用する。 (3)項目欄に記の（ ）内番号は共通仕様書の当該項目を示す</p> <p>(2)特記事項は○印のついたものを適用する。</p> <p>○印のつかない場合は＊印のついたものを適用する。</p> <p>○印と＊印がついた場合は○印のついたものを適用する。</p> <p>○印と○印がついた場合は、共に適用する。</p>		<p>項目</p> <p>特記事項</p> <p>① 適用基準等</p> <p>＊建設工事公衆災害防止対策要綱 ＊建設副産物適正処理実施要領（広島県土木局制定）</p> <p>＊建築工事安全施工技術指針 ＊再生資源利用促進実施要領（広島県土木局制定）</p> <p>② 設計図書の優先順位</p> <p>(1)現場説明に対する質問回答書 (2)現場説明書 (3)特記仕様書 (4)図面 (5)共通仕様書</p> <p>③ 官公署その他への届出手続等</p> <p>(1.1.3)</p> <p>工事の着手、施工、完成に当たり、関係機関へ必要な手続等を遅滞なく行うこと。また、これらの手続等を行うに当たっては、届出内容についてあらかじめ監督員に報告すること。なお、手続等に必要な費用は受注者の負担とする。</p> <p>④ 別契約の関連工事</p> <p>(1.1.7)</p> <p>本工事は別契約の工事に施工上密接に関連するため、監督員の調整に協力すると共に、工程計画及び工事用車両の出入り等について当該工事関係者と十分調整し、工事の滑らかな施工に努めること。</p> <p>⑤ 表示板の設置</p> <p>現場の見えやすい位置に、監督員が指示する次の表示板及び建築法等の他法令等に定める表示板を掲げること。 ＊工事名等の表示板（900mm×600mm）</p> <p>⑥ 工事実績情報の登録</p> <p>(1.1.4)</p> <p>受注者は、受注時又は変更時において請負金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス（CORINS）に基づき、登録（契約）、途中変更、竣工、訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し、監督員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し、登録機関発行の「登録内容確認書」を監督員に提出しなければならない。また、途中変更時の登録が必要な場合は、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。</p> <p>⑦ 発生材の処理等</p> <p>(1.3.10)</p> <p>○引渡しを要するもの ○PCBを含む機器類、PCB含有リソグ材、（ ）</p> <p>○次の建設廃棄物は上記によるものを除き再資源化する</p> <p>(1)建設リサイクル法による特定建設資材廃棄物及び建設発生土</p> <p>(○建設発生土 ○コンクリート塊 ○アスファルトコンクリート塊 ○建設発生木材)</p> <p>(2)金属類 (3)小型二次電池</p> <p>○その他建設廃棄物の再資源化 ＊無し・有り（・蛍光灯管、Hドラム・破損塩化ビニル管、継手）</p> <p>○指定建設資材廃棄物（木材が廃棄物となつたもの）の焼却 ＊無し・有り</p> <p>○再資源化された建設廃棄物の現場での利用 ＊無し・有り（ ）</p> <p>○産業廃棄物広域認定制度の適用 ＊無し・有り（ ）</p> <p>○処理に注意を要する建設廃棄物 ＊無し・有り（・CCA処理木材 ・ひ素、ｶﾞｽ含有石膏・ｶﾞｽ）</p>		<p>項目</p> <p>特記事項</p> <p>⑧ 工事工程表</p> <p>(1.2.1)</p> <p>⑨ 施工計画書</p> <p>(1.2.2)</p> <p>建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、建設副産物適正処理実施要領に基づき事前調査のうえ、事故防止及び環境保全に十分配慮した解体工法並びに建設廃棄物の処理等について具体的に定めた施工計画書を作成し、あらかじめ監督員に提出し承認を得ること。</p> <p>(仮設防護、安全・環境対策、工程計画、解体計画、発生材の処分計画)</p> <p>⑩ 施工条件</p> <p>(1.3.5)</p> <p>(1)作業時間は、原則午前8時半から午後5時までとし、通学時間帯を考慮すること。</p> <p>なお、時間変更する必要がある場合は監督員の承認を受けること。</p> <p>(2)日曜日及び祝日に作業を行わないこと。ただし、あらかじめ監督員の承認を受けた場合は、この限りではない。</p> <p>(3)その他指示による</p> <p>⑪ 安全確保</p> <p>(1.3.6～1.3.8)</p> <p>(1)受注者は、現場代理人を工事現場に常駐させ、工事現場内外及び下請け業者の管理を十分に払い、周囲の建物、通行者等に損傷を与えないよう注意して、工事施工をすること。なお、万一損傷が生じた場合は、受注者の責任において処理すること。</p> <p>(2)工事中は、騒音、振動の発生、粉塵の飛散（散水）、道路の汚染等の防止に努めること。</p> <p>低騒音型・低振動型建設機械の使用（近隣住民の生活環境の保全の必要性がある場合）</p> <p>(3)歩行者等の通行に支障を生じないよう誘導員を配置し適切な処置を講じること。特に道路幅の狭い箇所及び児童の通学路と重複する箇所には、誘導員を配置する等の措置を講じること。</p> <p>(4)ダンプトラック等による通積載の防止を図ること。</p> <p>(5)作業現場には、労働安全衛生法に基づく作業主任者を置き、作業の安全管理に努めること。</p> <p>①つり足場（ゴンドラのつり足場を除く）、突出し足場又は高さ5m以上の構造物の組立て、解体を行う場合、コンクリート造又は鉄骨造の工作物（その高さが5m以上のもの）の解体作業を行う場合は、労働安全衛生法第14条に基づく技能講習を終了したものである。</p> <p>②木造建築物の解体作業を行う場合は、平成3年1月2日付け発第339号「安全衛生教育の推進について」及び平成元年9月5日付け発第448号「木造建築物の解体工事の作業指揮者に対する安全教育について」に基づく安全教育を終了した者とする。</p> <p>⑫ 工事の記録</p> <p>(1.2.3)</p> <p>下記のものを監督職員に提出する。工事中写真の撮影は「業務写真写真作成要領」によるものとする。</p> <p>(1)工程写真</p> <p>工事の進捗に伴い工事全体的状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を期間別工事工程報告書に添付するものとする。</p> <p>(2)工事中写真</p> <p>全般的な解体工事の状況、建設副産物処理及び事前措置、解体手順の各段階における施工が完了した写真、水中又は地下に埋設される部分、分別解体を行っていることが確認できる状況写真、その他工事終了後では確認できない事項、その他監督員が指示する箇所は、A4版写真台紙（カラー・サービス版）にまとめて完成検査日まで11日提出するものとする。</p> <p>なお、基礎や地下構造物等の撤去については、撤去物の全貌に亙り、その位置・深さが明確に分かり撤去前と撤去後の状況が確認できる写真とすること。</p> <p>(3)完成写真</p> <p>着工前及び完了時の状況を同一方向から撮影したものを提出すること。</p> <p>(撮影箇所) 監督員が指示する箇所</p> <p>(写真規格) ○カラーサービス版 ・カラーキャビネット ・</p> <p>(規格・提出枚数) ○A4版クリアファイル 3部 ・A4版写真台紙 部 ・アルバム 部</p> <p>(表紙、背表紙に監督員の指示により工事名称等を印字すること)</p> <p>(4)その他の写真</p> <p>隣接建物等に損傷の恐れがある場合は、施工前、施工後の写真を監督員の指示により提出すること。</p> <p>(5)保管</p> <p>工事写真の工事は工事完成後、受注者において2年間保管すること（発注者にはCDにて提出すること）</p> <p>⑬ 電気保安技術者等</p> <p>＊電気保安技術者 ＊適用しない ・適用する</p> <p>⑭ 近隣との折衝</p> <p>(1.3.1.1)</p> <p>工事施工に当たっての近隣との折衝は次による。また、経過について記録し、遅滞なく監督員に報告する。</p> <p>(1)地域住民等と工事の施工上必要な折衝をおこなうものとし、あらかじめその概要を報告する。</p> <p>(2)工事に関して、第三者から説明の要求又は苦情があった場合は、直ちに誠意をもって対応する。</p> <p>(3)近隣に一般住宅及び市営住宅が有り注意を要する。</p> <p>⑮ 施工の検査</p> <p>(1.5.3)</p> <p>監督員による随時の立入り検査を行う。</p> <p>検査に必要な資機材、労務等を提供すること。</p>		<p>項目</p> <p>特記事項</p> <p>I 一般共通事項</p> <p>⑯ 中間技術検査</p> <p>(1.6.2)</p> <p>＊行わない ○行う（回数及び時期については監督員の指示による。）</p> <p>⑰ 工程報告</p> <p>期間別工事工程報告書を毎月2回3部提出すること。</p> <p>⑱ 埋設物等の報告</p> <p>工事の施工に当たり、図面にない地下構造物、埋設配管等が発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。</p> <p>⑲ 地下埋設物調査</p> <p>○行わない</p> <p>・行う 図示する範囲内において、整地前に敷地境界から2mの距離を置き、幅1m、深さ1.5mで、3m間隔で断面調査を行う。</p> <p>⑳ かし担保調査</p> <p>竣工後、発注者からかし担保調査（建設工事請負契約第41条に定める期間内）の連絡があった場合には、調査に協力すること。</p> <p>㉑ 家電リサイクル法対象機器の処分</p> <p>特定家庭用機器再商品化法（平成10年6月5日法律第97号）に指定する機械機器を処分する場合は、同法に基づき処理を行うこと。また、工事完了後に管理票の写しを提出すること。</p> <p>㉒ 竣工図</p> <p>残置及び設置工作物等、工事完了時に敷地内に存する物（埋設物も含む）の種類、位置及び供給管の切断箇所等の今後当該敷地を管理していく上で必要な事項を明記した配置図を作成し、A2版で2部提出するとともに、電子成果品（CD-R等）を1部提出すること。</p> <p>23 試掘</p> <p>地中に解体撤去すべき工作物等がないことを確認するため、完成検査時に次の方法により試掘を行う。</p> <p>・機械掘削</p> <p>・人力掘削</p> <p>なお、試掘は建築物1棟ごとに1箇所以上、外構（排水施設、舗装等）で1箇所以上行い、試掘する箇所については、検査員の指示による。</p> <p>II 仮設工事</p> <p>① 騒音・粉塵等の対策（仮囲い等の安全施設）</p> <p>(2.2.1)</p> <p>○解体工事着手前に工事対象区域内に仮囲い ○H=3.0m ○ 図示 ）を設置すること。</p> <p>○解体工事着手前に建物周囲に次の騒音・粉塵等の対策を行う。</p> <p>・（防音パネル ・ 防音シート ・ メッシュ金網、養生シート）</p> <p>・防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲及び高さ等</p> <p>・（建物周囲に建物高さ以上 ・ 図示 ）</p> <p>特種足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月24日基発第044001号）により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中せん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立てに関する基準」の2の(2)又は(3)の方法により行うこと。</p> <p>また、上記足場の設置や点検等については、労働安全衛生規則を遵守して実施すること。</p>	
---	--	--	--	--	--	---	--	--	--

項目			項目	特記事項	項目	特記事項			
Ⅲ 解 体 施 工	② 杭、基礎等 (3.9.1～3.9.2) (既設図面が無い為不明であるが本建物には杭はない と思われます。)	(1) 基礎の解体撤去は、騒音・振動等に配慮して分別解体し、砂利地盤・割り等事で行なうこと。は残置 (2) 杭の解体　・残置させる　＊解体する(・引き抜き工法　・破砕工法　・) ①　杭を残置する場合は、杭の種類・杭径、杭の位置、杭頂部高さ、深さ等の記録を整備し、 写真と共に監督員に提出する。 ②　残置杭の中、杭の破砕跡は、現場発生の良質土で埋め戻すこと ③　残置する杭頭は、キャップ等で被いコンクリートを打設すること。	V ア ス ベ ス ト 含 有 建 材 の 除 去 等	① 施工調査 (6.1.2) <9.1.1> < >は公共建築改修工事標準 仕様書(建築工事編)の該当項 目を示す	目視及び設計図書等により、あらかじめ事前に次の事項について施工調査を行い、調査結果をとりまと めて監督員に提出する。 (1) 使用部位の確認 (2) 種類、厚さ等の確認 (3) 使用数量の確認 (4) 施工範囲と工事管理区分の確認 ○アスベスト含有分析調査(＊不要・必要(内容は下記による)) 分析方法　＊JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による定性分析 分析必要部屋名等(＊図示)　分析必要箇所(　　箇所)	5 ア ス ベ ス ト 含 有 保 温 材 等 の 除 去 (6.4.1～6.4.5) <9.1.4>			
	③ 解体手順 (3.3.1)	解体仕様書解体手順における(1)解体設備は図示又はリストによる。		2 アスベスト粉じん濃度 測定 (6.1.3) <9.1.1>	＊アスベスト粉じん濃度測定を行い、記録し監督職員に報告する。 測定方法は、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)最新版による。 測定点の取り方 (1) 処理作業前 ・処理作業室内(　点) ・施工区画周辺又は敷地境界(　点) (2) 処理作業中 ・処理作業室内(　点) ＊セキュリティゾーン入口(　点)・・・空気の流れを確認 ＊負担・除じん装置の排出口(　点)・・・除じん装置の性能確認 ・施工区画周辺又は敷地境界(　点) (3) 処理作業後(離隔シート撤去前) ＊処理作業室内(　点) ・施工区画周辺又は敷地境界(　点)		6 ア ス ベ ス ト 含 有 成 形 板 の 除 去 (6.5.1～6.5.4) <9.1.5>		
	④ 構内舗装等 (3.10.1)	(1) アスファルトコンクリート及びコンクリート等の解体は本工事とし、分別解体する。 (2) 樹木等の伐採伐根及び移植 ●有り(図示による)　・無し(移植)　○木根の処分含む		③ 除去工事共通事項 (6.2.1～6.2.7) <9.1.2> (6の項目に該当するもののみ適用)	(1) 専門工事業者 アスベスト含有建材の除去を直接行う専門工事業者者については、工事に相応した技術を有することを 証明する資料を監督職員に提出すること。 (2) 作業主任者及び特別管理産業廃棄物管理責任者 ①石綿作業主任者技術講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技術講習を修了した者 のうちから、アスベスト作業主任者を選任し、管理させること ②排出事業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有する者を選任し管理させること。 (ただし、アスベスト含有成形板の処理工事を除く。) (3) 除去作業者 アスベスト含有建材の除去に従事する作業者(以下「除去作業者」という。)は、石綿障害予防 規則(平成17年厚生労働省令第21号。以下「石綿規則」という。)に基づく特別の教育を受けた者 とする。また、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断、じん肺健康診断を受診した者とし 、肺機能に異常がない者とする。 (4) 施工計画書 施工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工 調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承認を受けること。 (5) 表示及び指示 ①アスベスト作業主任者名と職務内容、関係者以外立入禁止、喫煙・飲食の禁止、アスベスト除去 作業中等の表示を行う。 ②アスベストの有害性、取扱い上の注意事項、使用すべき保護具の指示を行う。 ③「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ(労働基準監督署への届出内容、粉じん飛散抑制 措置、ばく露防止措置等)」を周辺住民の見やすい場所に掲示する。 (6) 保護具・保護衣 ①作業者は、作業内容に応じた呼吸用保護具、保護めがねを使用するとともにアスベストが付着し にくく、付着したアスベストが容易に除去できる作業衣又は保護衣を着用する。 ②監督職員の現場作業の立入確認のため、保護具、保護衣を一式現場に備える。 (7) 官公署その他への手続き ①労働安全衛生法の吹付け石綿除去作業の工事計画書(労働基準監督署) ②「石綿規則」第5条第1項の規定による作業票(労働基準監督署) ③大気汚染防止法の特定粉じん排出等作業実施届出(都道府県知事) ④その他、各自治体の条例又は要綱等により義務付けられている届出 (特別管理産業廃棄物管理責任者設置報告書等) (8) 適用基準等 ＊「建設・解体工事に伴うアスベスト廃棄物処理に関する技術指針・解説書」				
	⑤ 整地・埋戻し・盛土 (3.12.1)	(1) 解体撤去後の跡地は整地(整地厚10cm程度)すること。(なお盛土の場合は図示による) ○持ち込み土(山砂の類)・現場発生の良質土・他現場の現場発生良質土・再生コンクリート砂 ・リサイクルプラントが販売する処理土　・砕石 (2) 土砂流出の恐れのある部分は、土のう等で処置すること。 (3) 表層部分はアスファルト舗装とする。範囲は図示による。		4 アスベスト含有吹き付け 材の除去 (6.3.1～6.3.4) <9.1.3>	(1) 作業場の隔離、養生等(6.3.1) ①除去に伴いアスベストの作業場から外部への飛散防止及び処理を行わない他の部位への汚染を 防止するため、プラスチックシート等を用いて隔離する。 ②隔離した作業場内は、HEPAフィルターを備えた負担除じん装置により、常時負圧を保つ ③隔離した作業場内への出入りによるアスベスト粉じんの二次汚染を防止するため、前室、洗浄 室及び更衣室の3室で構成するセキュリティゾーンを設置する。 ④更衣室には洗濯又はうがいの設備を設ける。ただし、現場内他の場所にこれら設備を設ける 場合はこの限りではない。 ⑤洗浄室にはエアシャワー設備又は温水シャワー設備を設ける。 ⑥除去物の処理(6.3.2) ＊密封処理(二重袋梱包)　・セメント固化				
	⑥ 建設発生土	＊場外指示の場所に処分　○場外搬出適切処理　・場外指示の場所に敷き均し ・場内指示の場所に堆積　・場内指示の場所に敷ならし ・当該工事により発生する建設発生土は、次の公の関与する埋立地に搬出するものとする。 搬出場所：　　の公の関与する埋立地 ＊当該工事により発生する建設発生土は、「建設発生土処分先一覧表」に掲載されている施設の いずれかに搬出するものとする。また、搬出先として、運搬費と受入費(平日の受入費用)の合計 が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入れ地(一時的に積を含む) を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に関する費用は変更しない。 なお、工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の仕様に限り難い場合は、 監督員と協議するものとする。							
	① 施工調査 (5.1.2)	(1) 特別管理産業廃棄物等とは、特別管理産業廃棄物及び特殊な建設副産物をいい、その種類は次による。 これらについて、設計図書及び目視により、施工調査を実施し調査結果を調査に取りまとめ、 監督員に提出する。 特別管理産業廃棄物　○炭石等類　・PCBを含む機器類　・PCB含有シーリング材　・炭油 ・炭酸、炭アルカリ　・蛍光灯安定器 特殊な建設副産物　・フロン、ハロン等の特定物質　・放射性物質　・六ふっ化硫黄(SF6) ・特定化学物質等 (2) 発注者による調査(発注者調査)で判明している特別管理産業廃棄物等は次のとおりであり、 適切に処理すること。また、下記については施工調査結果と共に調査結果(調査)に反映させること ○特別管理産業廃棄物　①炭石等類　(＊無　○有(別図参照)) ②PCBを含む機器類　(＊無　・有(　　)) ③PCB含有シーリング　(＊無　・有(　　)) ④炭油　(＊無　・有(熱源の残油(オイルタンク及び配管内容))) ⑤炭酸、炭アルカリ　(＊無　・有(　　)) ・特殊な建設副産物　①フロン等の特定物質　(＊無　・有(パッケージ型空調調機の冷媒 ・ルウムエアコンディショナーの冷媒)) ②放射性物質　(＊無　・有(　　)) ③六ふっ化硫黄(SF6)　(＊無　・有(　　)) ④特定化学物質等　(＊無　・有(　　))							
Ⅳ 特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 等 の 処 理 等	② 特別管理産業廃棄物の 処分等 (5.4.1)	処分等の必要な特別管理産業廃棄物は、関係法令に従い適切に処分すること。又、施工調査によって、 判明した箇所も、処分方法を監督員と協議し、同様に処分すること。							
	③ 炭石等類 (5.4.2)	炭石等類の処理は、次章Ⅴ「アスベスト含有建材の除去等」による(有る場合は適用する)							
	4 PCB含有機器類 (5.4.3)	事前調査対象機器は次による。 ・キュービクル　・地下オイルタンク							
	5 PCB含有シーリング材 (5.4.4)	PCB含有シーリング材の分析調査及び撤去は次による。 ・分析調査箇所数(　計　箇所)　分析調査箇所　＊図示 ・撤去範囲は、次のとおりとし、PCB含有シーリング材はPCBが飛散しないように適当な容器に 納め、適切な場所に保管し、調査を作成の上、合わせて監督員に引渡すこと。 (・図示による)							
	⑥ 特殊な建設副産物の 回収及び処分 (7.3.1)	回収及び処分の必要な特殊な建設副産物は、関係法令に従い適切に回収・処分すること。又、施工調査 によって判明した箇所も、処分方法を監督員と協議し、同様に処分すること。							
MEMO					図面名	特記仕様書(2)	工事名	市営七日市第1号住宅(19号室・20号室)解体撤去工事　設計図	
					縮尺	製作日			
								No.	A - 3



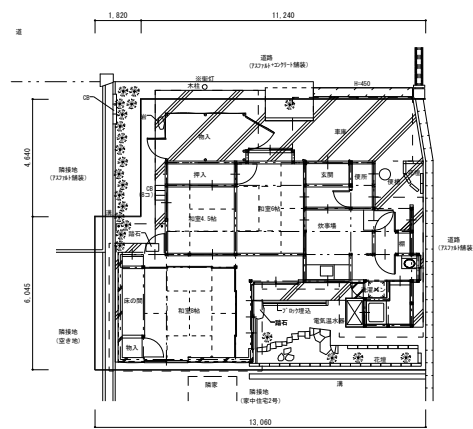
配置図 S=1:100

建物本体及び式走り等付属物の解体撤去以外に外構関係の下記の付属物も解体撤去を行い整備する	
凡例	
①	コンクリートブロック塀 (7段)
②~⑤	花壇
⑥	コンクリート構造物
	岩、踏み石、コンクリートブロック ほか
便槽	洗浄、消毒は本工事とする
雑草	雑草他すき取り
	雑排水側 排水管の撤去も本工事とする (既設図面が存在しないため位置は不明)
M	量水器 既設水道管のバック止めも本工事とする。メーターは三次市水道課に返却のこと(位置は打合せによる)
	街灯は本工事対象外とする (既設のまま保存)
	不明な場合は監督員と協議を行い工事を進めるものとする



整地範囲図 S=1:100

凡例	
	整地範囲を示す
	整地の範囲は監督員と協議の上、最終位置を決めるものとする
	整地は搬入土(購入土・サ土程度)t=50にて施工
	整地後、進入禁止ロープ設置 (鉄ピンワンタッチ式φ14、H=1500+黄ロープ)

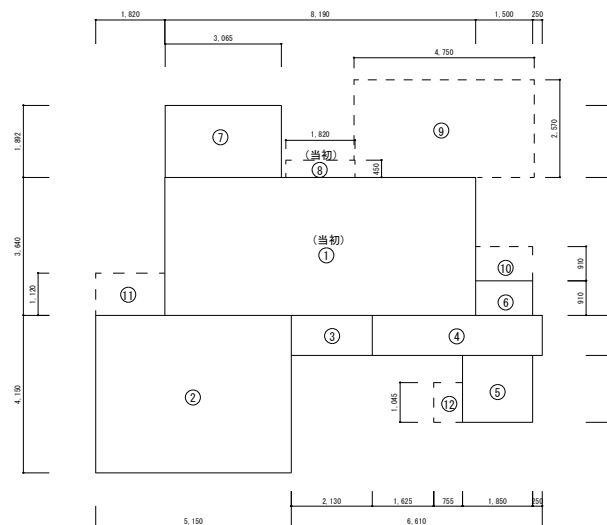


凡例	
	仮囲い(単管1本足場 + 防音シート張り)

【特記事項】
本仮設参考図はあくまでも参考として利用し、実施に当たっては関係者協議の上
総合仮設計画書及び仮設図を作成し、監督員の承認ののち施工するものとする。
隣接民家及び道路の通行の支障のないように配慮すること。

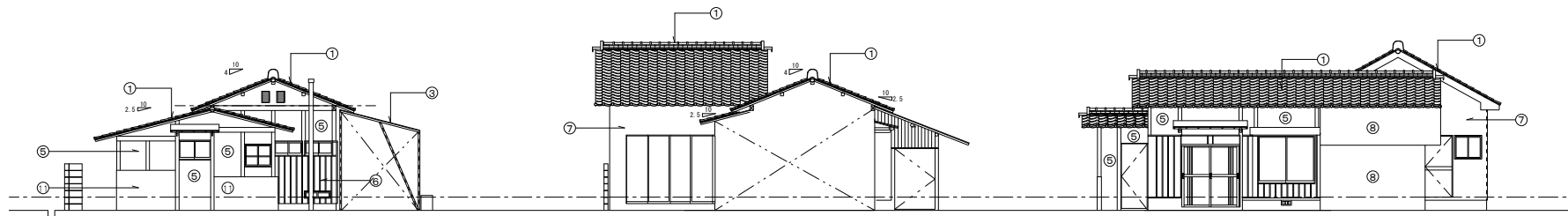
(縮小率 : A2=100%, A3=70%)

MEMO				図面名	配置図・整地範囲図・仮設参考図	工事名	市営家中住宅1号解体工事	設計図
				縮尺	S=1/100	製作日		No. A - 5



	符 号	計算式	面積 (㎡)	
当初	①	8.19×3.64	29.81	RC造
	②	5.15×4.15	21.37	
	③	2.13×1.05	2.24	
	④	4.48×1.05	4.70	
	⑤	1.85×1.76	3.25	
	⑥	1.50×0.91	1.36	
	⑦	3.06×1.89	5.78	
当初	⑧	1.82×0.45	0.81	上屋のみ (アルミ)
	⑨	4.75×2.57	12.20	
	⑩	1.50×0.91	1.36	
	⑪	1.82×1.12	2.03	
	⑫	0.75×1.04	0.78	

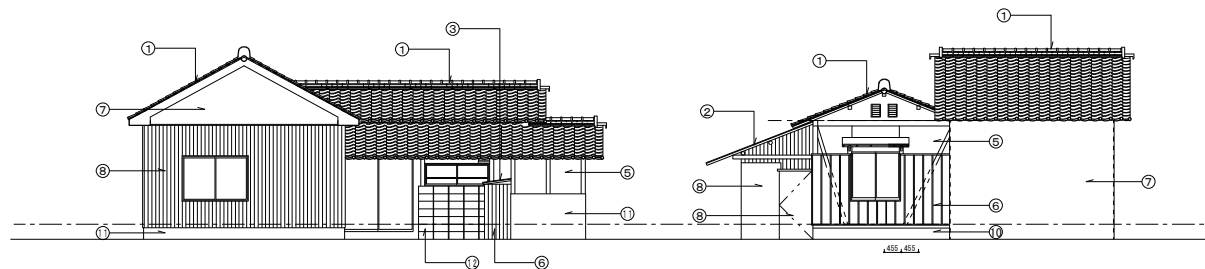
	当初建物	(㎡)	入居者による増築建物	(㎡)	合計 (㎡)
建築面積	① + ⑧	30.62	② + ③ + ④ + ⑤ + ⑥ + ⑦ + ⑨ + ⑩ + ⑪ + ⑫	55.06	85.68
床面積	①	29.81	② + ③ + ④ + ⑤ + ⑥ + ⑦	38.69	68.50



東立面図 Scale=1:100

東立面図 Scale=1:100

北立面図 Scale=1:100



南立面図 Scale=1:100

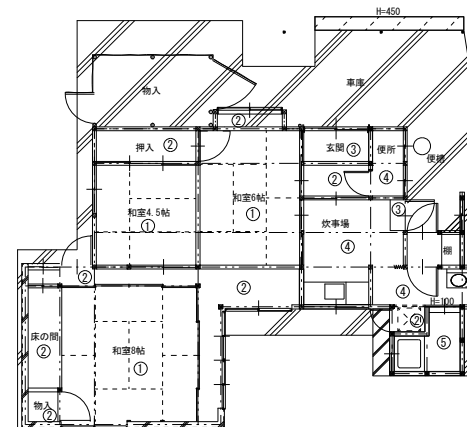
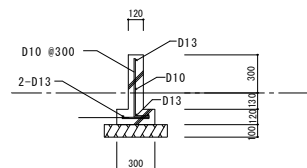
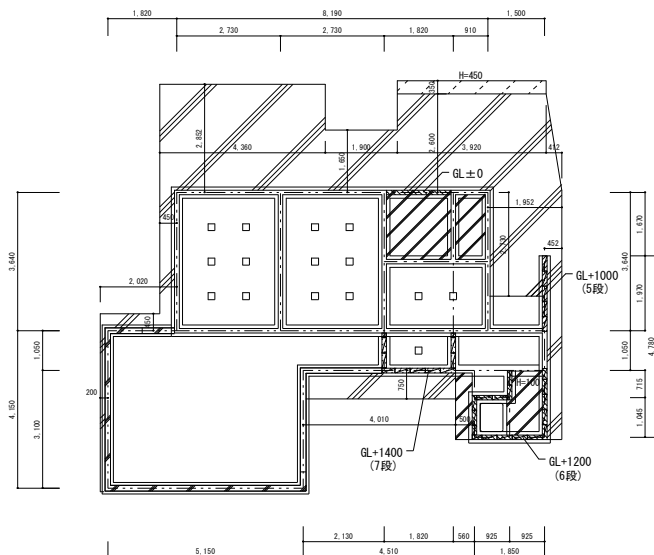
西立面図 Scale=1:100

外部仕上

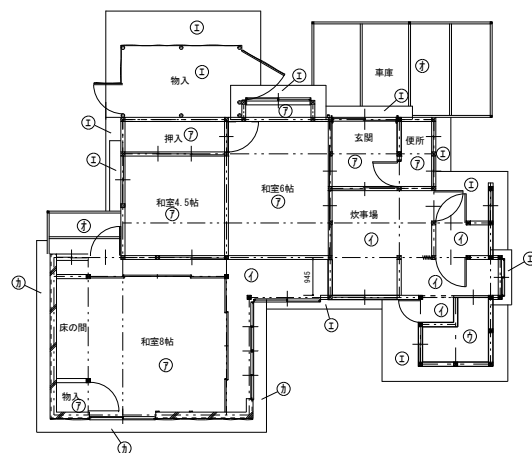
符号	仕 上
①	和瓦
②	トyn波板葺き
③	塩ビ波板葺き
④	カラー鉄板
⑤	漆喰塗り 木舞
⑥	板張り
⑦	リッ吹付
⑧	カラー鉄板 (波板)
⑨	軒裏 (杉板あらわし)
⑩	ケイ酸カルシウム板 t=3mm
⑪	モルタル刷毛引き仕上
⑫	コンクリートブロック t=120

(縮小率 : A2=100%, A3=70%)

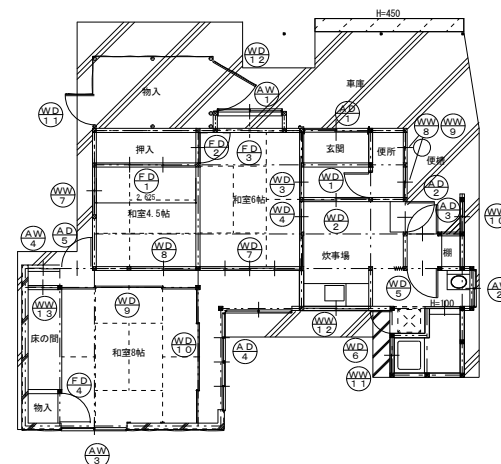
MEMO				図面名	立面図	工事名	市営家中住宅1号解体工事	設計図
				縮尺	S=1/100	製作日		No. A - 7



符 号	仕 上 げ
①	畳敷き
②	板張り
③	モザイクタイル
④	塩ビシート貼
⑤	タイル貼
⑥	
⑦	



符 号	仕 上 げ
⑦	板張り
①	タイル貼
⑦	モザイク仕上
②	野地板表し
⑦	ビニール小波板
④	リッパ吹付



(縮小率 : A2=100%, A3=70%)

MEMO					図面名	基礎伏せ図・床伏せ図 天井伏せ図・建具配置図	工事名	市営家中住宅1号解体工事	設計図
					縮尺	S=1/100	製作日		No. A - 8